



九州北部地方 3か月予報の解説

(2025年12月～2026年2月)

寒候期予報として発表していたこの冬（12～2月）の予報については、今回の3か月予報等最新の予報をご利用ください。

令和7年11月25日14時発表

福岡管区気象台予報課

3 か月予報のポイントと留意点 (2025年12月～2026年2月)



予報のポイント

- 向こう3か月の**気温**は**ほぼ平年並**でしょう。
- 向こう3か月の**降水量**は、**低気圧の影響を受けにくい**ため**少ない**でしょう。

留意していただきたいこと

- **降水量は少ないため、火の取り扱いに注意**（平年でも降水量が少なく乾燥する時期。**強風時**は特に**注意**）。
- **冬型の気圧配置が強まり、寒気が流れ込みやすい時期がある**見込みです。
- **一時的に強い寒気が入って雪となる可能性**もあります。最新の予報・気象情報等に留意してください。



冬の対策（火の取り扱い注意・寒さ対策・雪への備え）をお願いします。



秋～冬の九州北部地方の平年の天候経過

11～3月
平年の天候

11月
秋

12月

1月
冬

2月

3月
春

周期変化

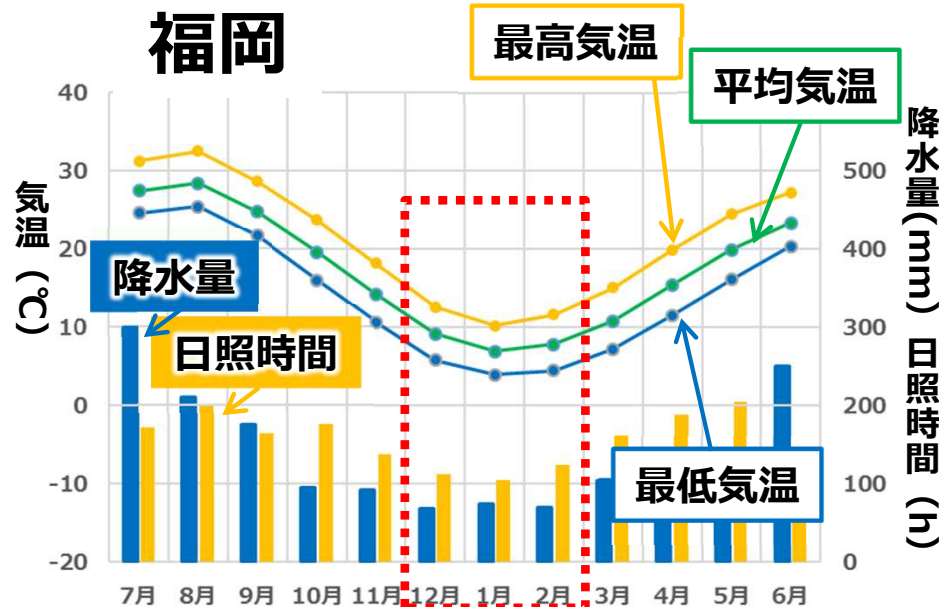
曇りや雨または雪の日が多い
※大分は晴れの日が多い

周期変化

平年値の期間
1991～2020年

予報期間

気温・降水量・日照時間の
月別の平年値



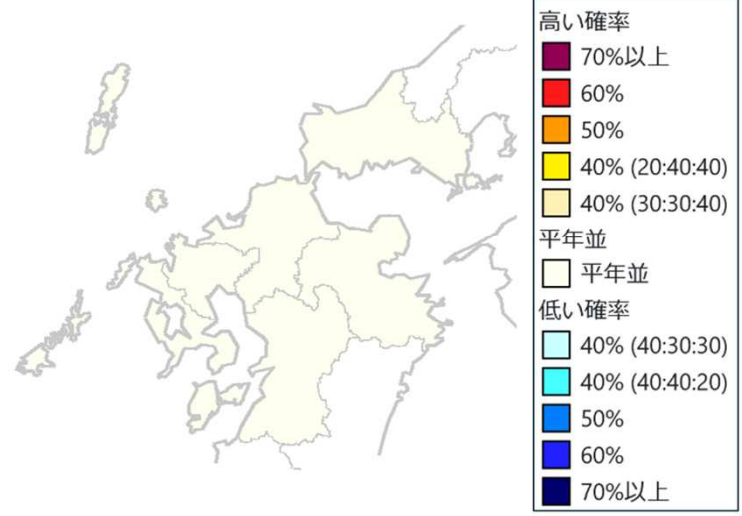
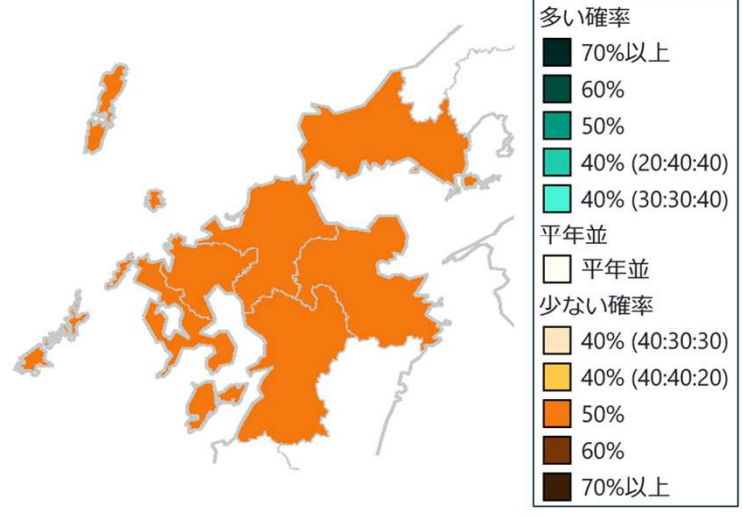
12月～2月（冬）の
平年の天候のポイント

- ・ 冬型の気圧配置となりやすく、**曇りや雨または雪の日が多い**が、**降水量は少ない**。
- ・ 1月（1月下旬～2月上旬）は最も気温が**低い**時期にあたる

向こう3か月の天候の見通し（2025年12月～2026年2月）



3か月（12～2月）の平均気温・降水量

九州北部地方 （山口県を含む）	 平均気温（3か月） 12～2月	 降水量（3か月） 12～2月
	低 30 並 40 高 30 ほぼ平年並 の見込み	少 50 並 30 多 20 少ない 見込み
 数値は予想される 出現確率です		

9月22日発表の寒候期予報からの変更点

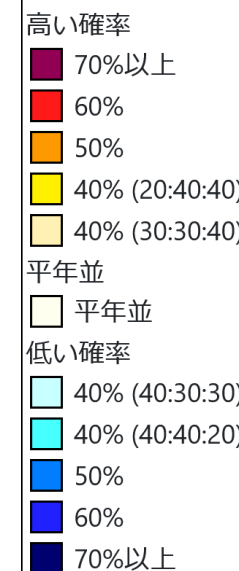
平均気温・降水量 ともに変更ありません

月別の予報（2025年12月～2026年2月）

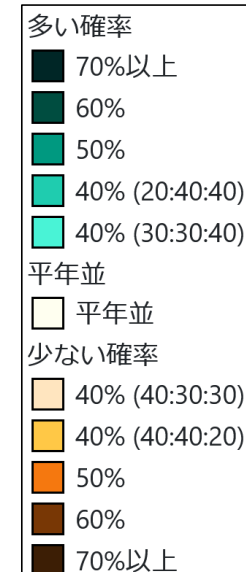


	12 月	1 月	2 月
天候	低気圧の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。	低気圧の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。	低気圧の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。
気温	低 30 並 40 高 30 ほぼ平年並の見込み	低 40 並 30 高 30 ほぼ平年並の見込み	低 30 並 40 高 30 ほぼ平年並の見込み
降水	少 50 並 30 多 20 少ない見込み	少 40 並 40 多 20 平年並か少ない見込み	少 40 並 40 多 20 平年並か少ない見込み

凡例 気温



降水量



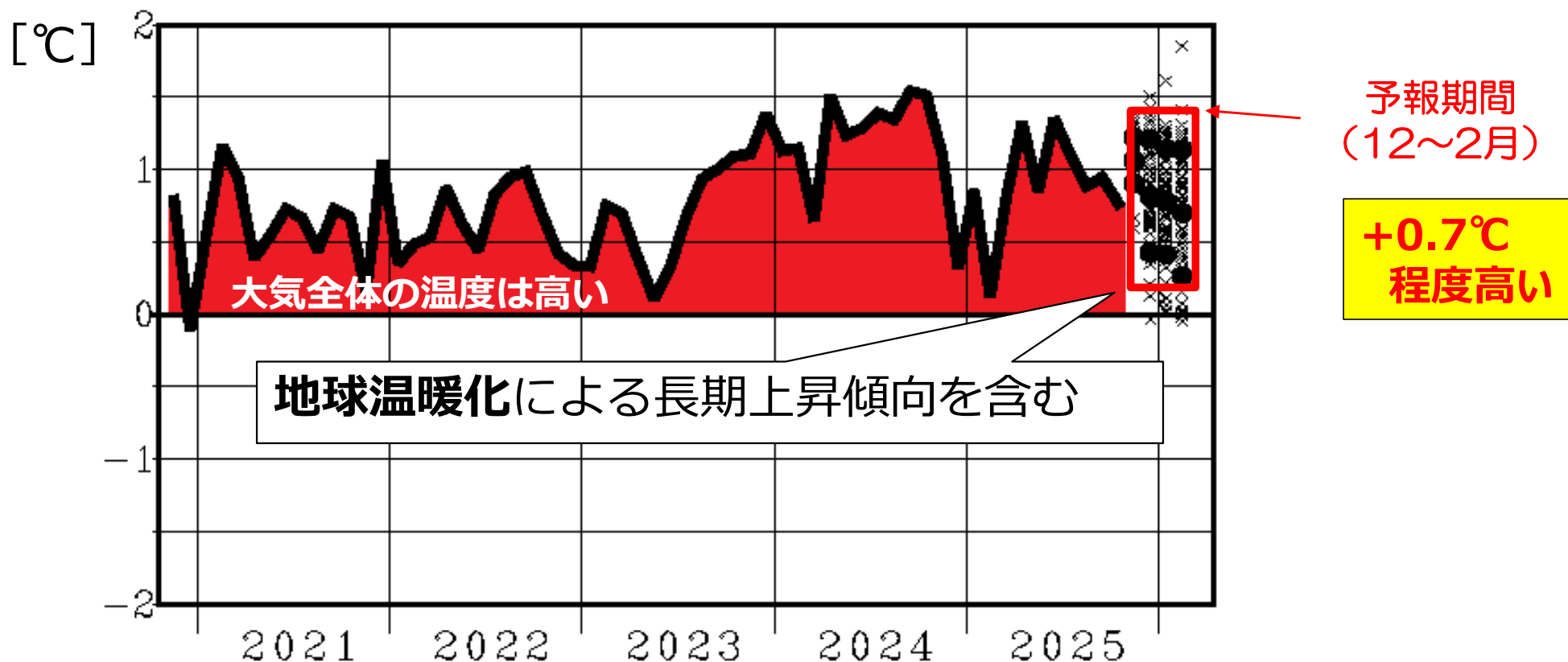
前回からの変更

- 高温側へ変更
- 低温側へ変更
- 少雨側へ変更

予報の根拠① 大気全体の気温の予測



大気全体の温度が平年より高く、
北半球中緯度でも高い状態が継続



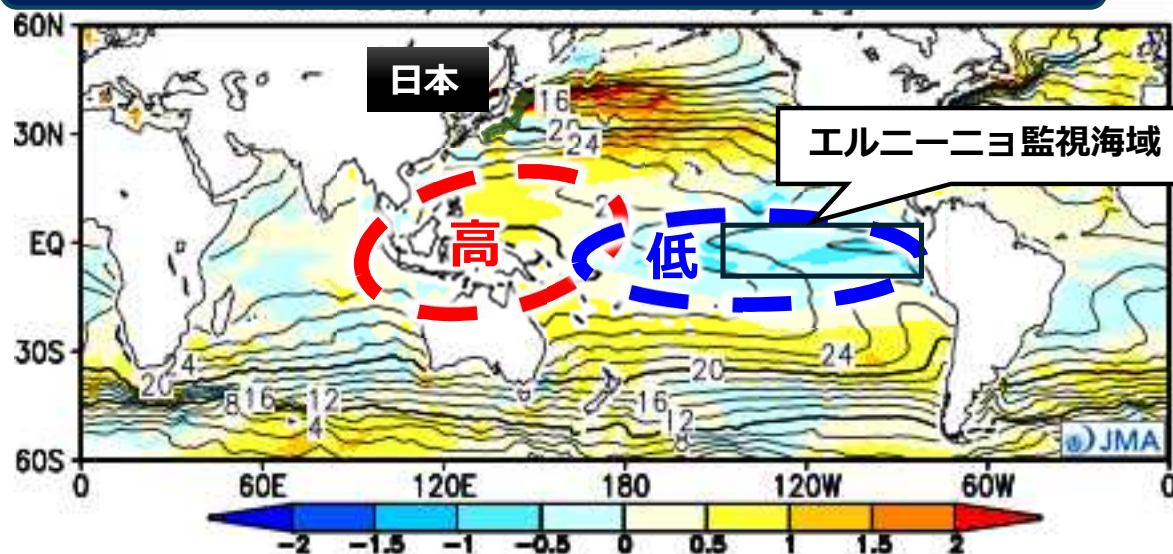
北半球中緯度（北緯30～50度）

対流圏（高さ約1500～10000m）の温度の平年からの差
実線は実況、ボックス部分は数値予報による予測

現在の平年値の期間 1991～2020年

予報の根拠② 海面水温の予測

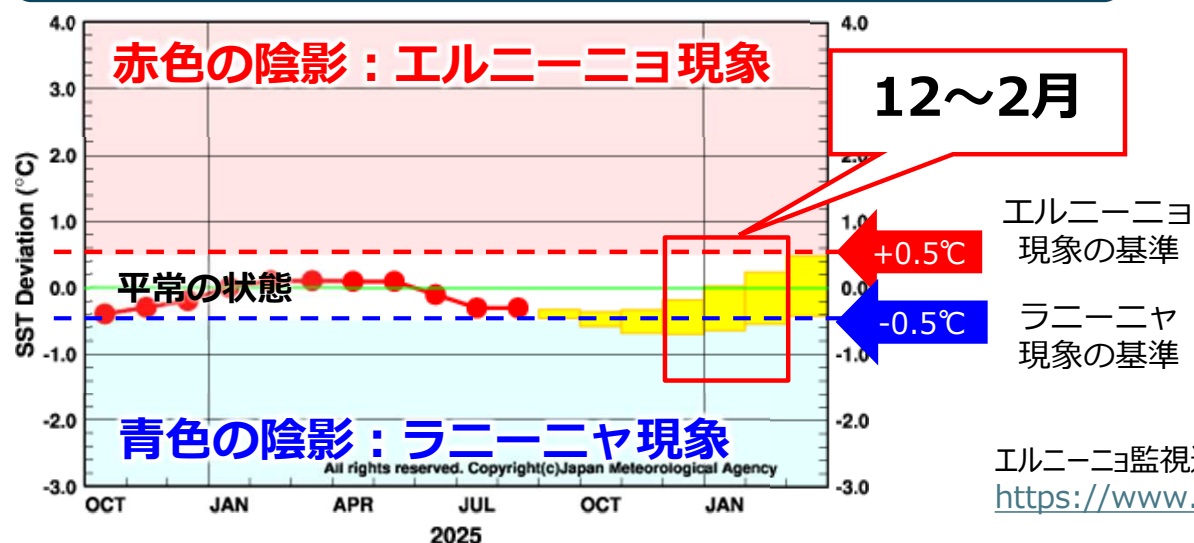
3か月（12～2月）の海面水温（予測）



太平洋赤道域西部～フィリピンの東で**高く**、太平洋赤道域の中～東部で**低い**。

冬の前半を中心に、**ラニーニャ現象**に近い海面水温分布が続く見込み。

エルニーニョ現象・ラニーニャ現象の見通し

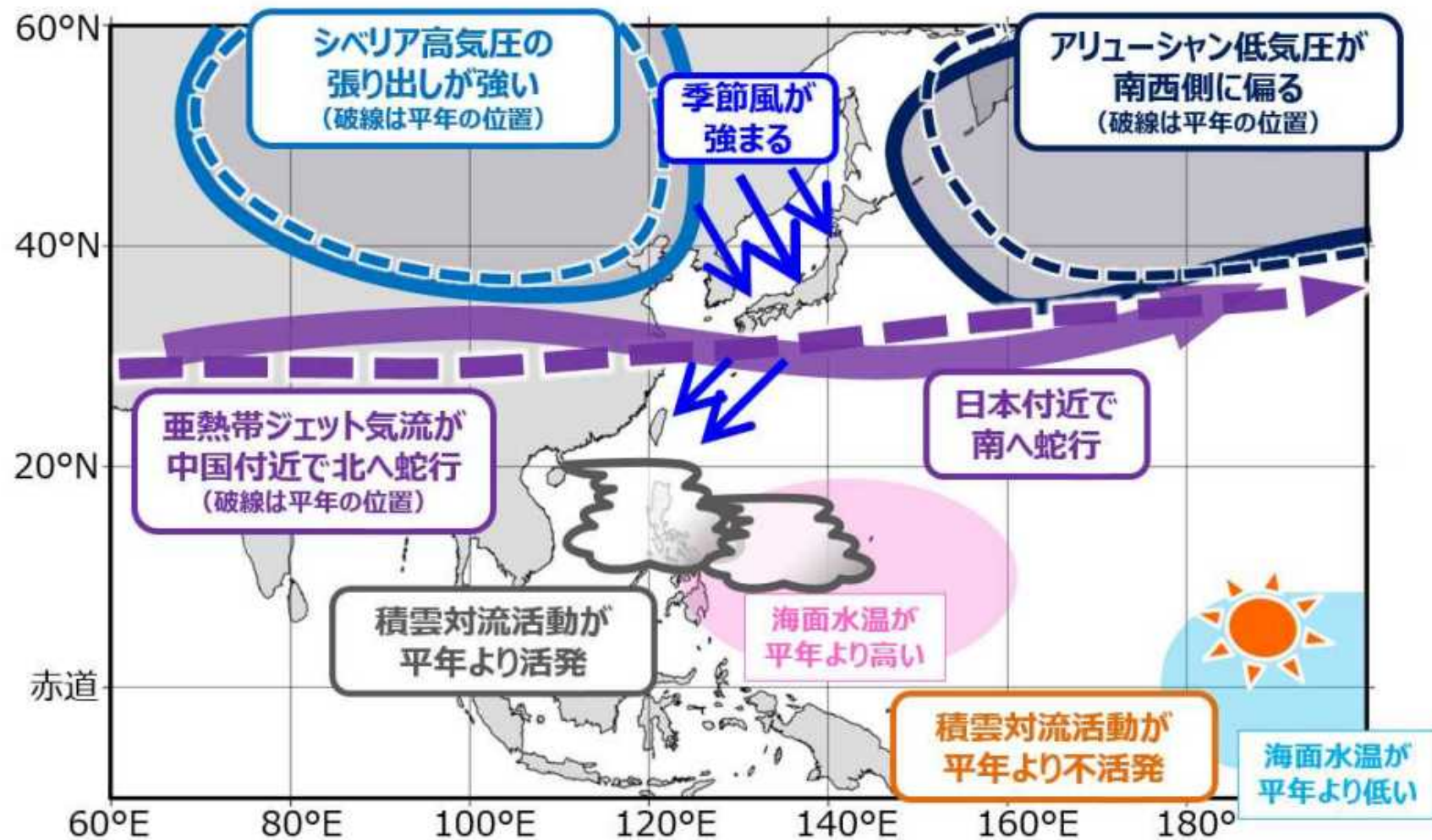


- エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態とみられるが、ラニーニャ現象に近い状態となっている。
- 今後、冬のはじめにかけてラニーニャ現象に近い状態が続く。しかし、その後は急速に解消するため、ラニーニャ現象の発生には至らず、春のはじめにかけて、平常の状態が続く可能性が高い（80%）。

エルニーニョ監視速報：

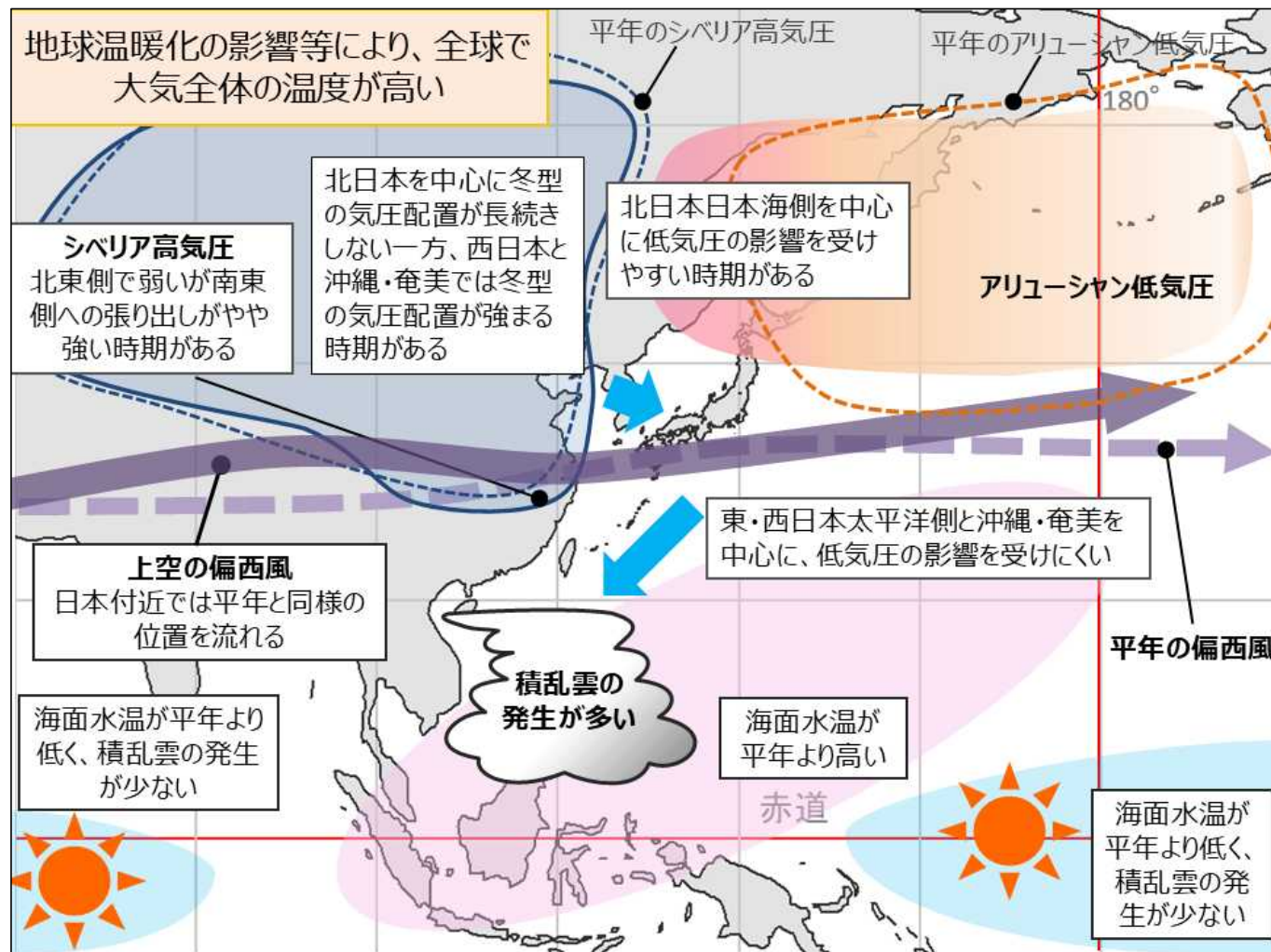
https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html

ラニーニャ現象時の冬の統計的な特徴（参考）



大陸のシベリア高気圧の張り出しが強い＋アリューシャン低気圧が南西側に偏る
⇒日本付近は、東西の気圧の傾きが大きくなって、冬型の気圧配置が強まる。
また、日本南岸の低気圧の影響は受けにくい（気温は低く、降水量は少ない傾向）。

12～2月の予想される海洋と大気の特徴



- 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が**高い**。
- ラニーニャ現象に近い状態**となり、**上空の偏西風**は、**ユーラシア大陸で北に蛇行**し、**日本付近で南に蛇行**する（日本付近では平年と同様の位置を流れる）。
- 大陸の**シベリア高気圧**の南東側への張り出しがやや強い時期があり、**冬型の気圧配置が強まる時期がある**。
⇒**寒気が流れ込みやすい時期がある**

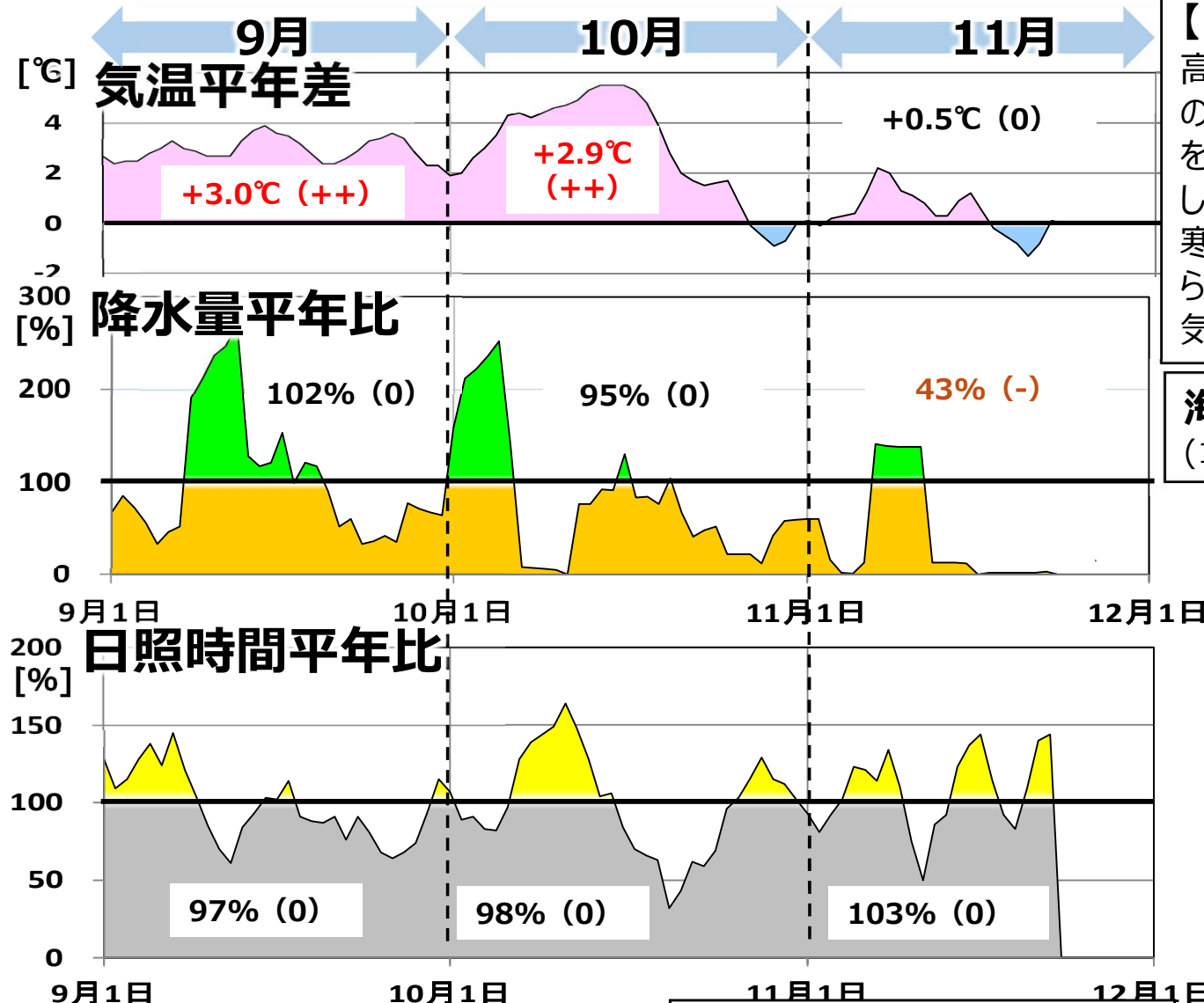
（ラニーニャ現象時の特徴の低温傾向を踏まえ、全球での気温が高い傾向も考慮すると、3か月を通すと気温はほぼ平年並を見込んでいます）

- 低気圧の影響を受けにくい**（=降水量は**少ない**）。

【熱帯域の海面水温と対流活動】

- 期間の前半を中心にラニーニャ現象に近い状態。海面水温は、太平洋赤道域西部～フィリピンの東で高く、太平洋赤道域中・東部とインド洋熱帯域西部で低い。
- 積乱雲の発生が、フィリピン付近を中心に多く、インド洋西部と日付変更線付近で少ない。

九州北部地方の天候経過 (9～11月)



数値は月平年差 (比) ・ 階級区分値

11月の値は20日までの暫定値

グラフは5日移動平均値でプロット

階級区分値

- (++) : かなり高い/かなり多い
- (+) : 高い/多い
- (0) : 平年並
- (-) : 低い/少ない
- (--) : かなり低い/かなり少ない

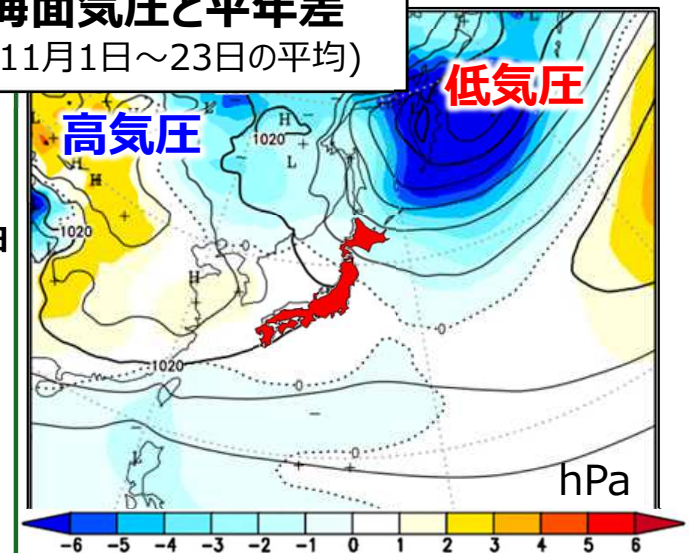
【11月の天候】

高気圧に覆われた時期と日本の南の前線の影響を受けた時期があり、降水量は平年を下回りましたが日照時間はほぼ平年並でした。

寒気の影響が弱く、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込む日もあったため、気温は平年を上回りました。

海面気圧と平年差

(11月1日～23日の平均)



カムチャツカの東で低気圧が強く、北日本では低気圧や低気圧通過後、西高東低の気圧配置となって寒気の影響を受けやすかった。本州付近では平年より気圧が高く、移動性高気圧に覆われやすかった。

3か月予報のまとめ（2025年12月～2026年2月）



予報のポイント

- 向こう3か月の**気温**は**ほぼ平年並**でしょう。
- 向こう3か月の**降水量**は、**低気圧の影響を受けにくい**ため**少ない**でしょう。

留意していただきたいこと

- **降水量は少ないため、火の取り扱いに注意**（平年でも降水量が少なく乾燥する時期。**強風時**は特に**注意**）。
- **冬型の気圧配置が強まり、寒気が流れ込みやすい時期がある**見込みです。
- **一時的に強い寒気が入って雪となる可能性**もあります。最新の予報・気象情報等に留意してください。



強い寒気による低温等は、毎日発表している2週間気温予報でチェックできますのでご活用ください。
次回の3か月予報（1～3月）の発表日は、12月23日（火）です。

季節予報に関するお問い合わせ先
福岡管区気象台予報課（092-725-3604）

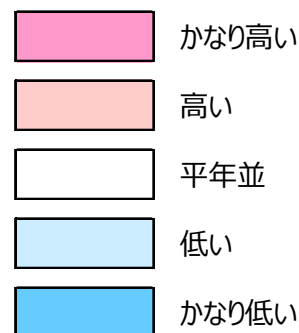
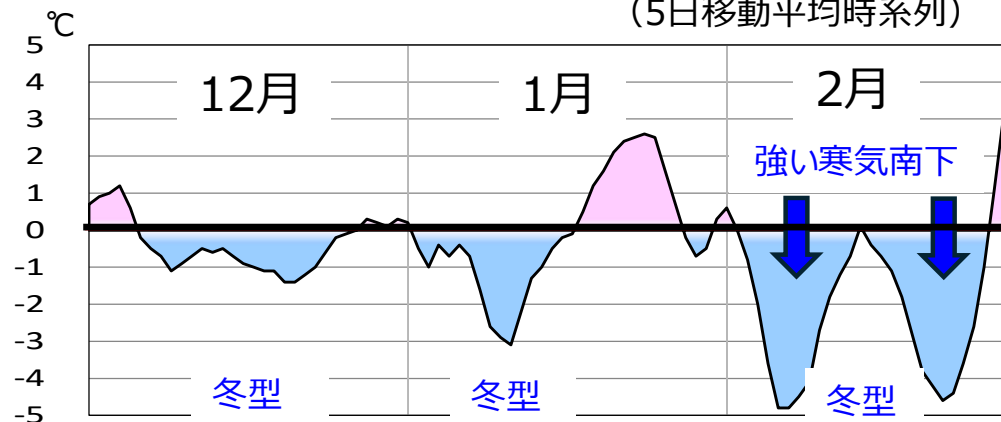
【参考】最近10年の12～2月（冬）の気温（九州北部地方）



最近10年間の九州北部地方平均気温平年差（℃）と階級

年	12～2月	12月	1月	2月
2024/25	-0.8	-0.2	-0.2	-2.1
2023/24	1.6	0.8	1.3	2.6
2022/23	0.0	-1.4	0.3	1.2
2021/22	-0.5	0.0	0.0	-1.5
2020/21	0.5	-0.9	0.1	2.2
2019/20	1.8	1.3	2.6	1.7
2018/19	1.1	1.0	0.9	1.4
2017/18	-1.6	-1.8	-1.3	-1.7
2016/17	0.6	1.4	0.4	0.0
2015/16	0.5	1.4	0.1	0.0

2024/25年の九州北部地方平均気温平年差
（5日移動平均時系列）



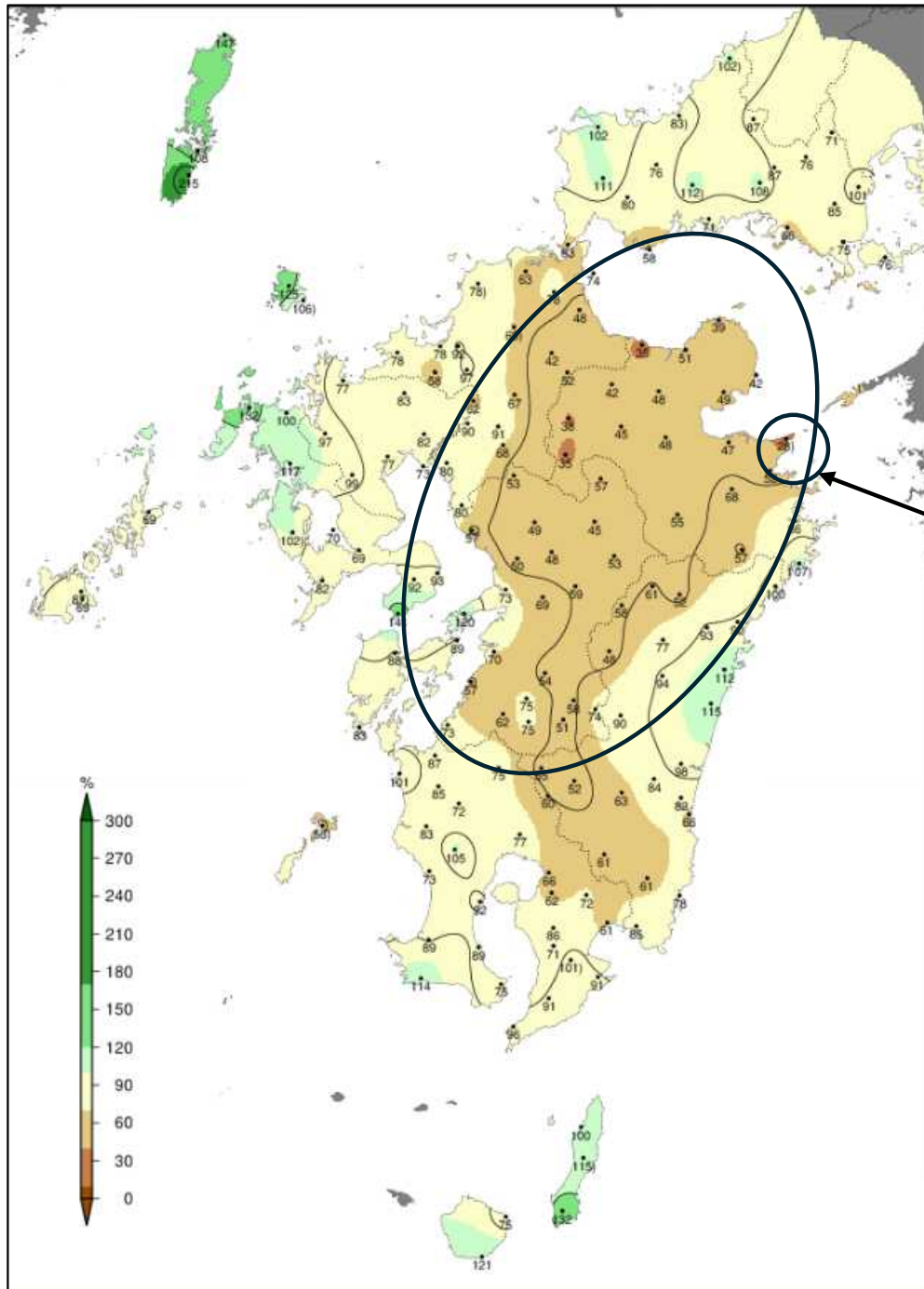
年の色は、赤：冬にエルニーニョ現象が発生している 青：冬にラニーニャ現象が発生している

- 最近10年間では、**ラニーニャ現象が発生していた冬は、冬の前半を中心に低温が多い傾向**。（ただし、ラニーニャ現象に近かった昨冬や2年目のラニーニャ現象だった2021/22年冬は、2月に低温）
- 昨冬（2024/25年）は、12月中・下旬、1月上旬の後半、2月上旬・下旬は、冬型の気圧配置となって寒気が南下し、特に、2月上旬・下旬は強い寒気が南下した。また、降水量はかなり少なかった。

※2024/25年冬とは、2024年12月～2025年2月を表す。他の年も同様。

補助資料

9月1日～11月20日のアメダス降水量平年比



秋の降水量は、
低気圧や前線、台風の影響を平年より受けにくく、高気圧に覆われやすかったため、平年を下回った所が多く、特に**大分県**や**熊本県**では、**平年の1/2を下回った所がある**。

今後、雨の少ない乾燥した時期となるため、火の取り扱いには注意が必要（強風時は特に注意）。

●大分県大分市佐賀関アメダス

9/1～11/20の降水量

123.5)ミリ（平年値 447.1ミリ）

平年比 28%

6/1～11/20の降水量

592.0)ミリ（平年値 1146.8ミリ）

平年比 52%

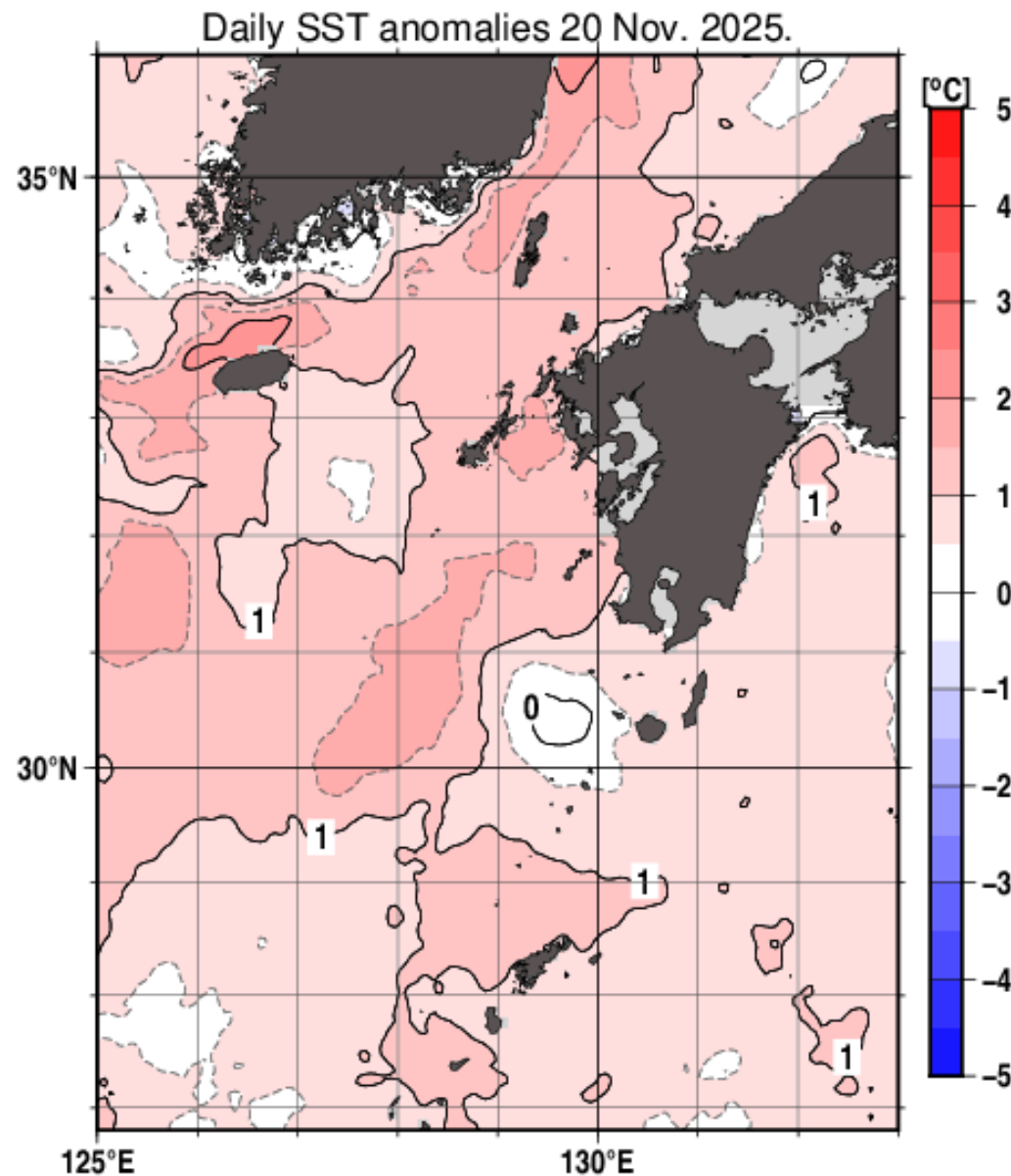
1/1～11/20の降水量

1060.0)ミリ（平年値 1638.0ミリ）

平年比 65%

*)は、期間内の資料に若干の欠損があるが、
統計として利用するには一定の品質を満たす値
（準正常値）（佐賀関は9/4～5に欠測あり）

海面水温（平年差） 実況・向こう1か月の予測



<実況>

11月中旬は、
日本海南部では、平年より日射量が多かった影響で、海面水温が平年よりかなり高い海域が拡大し、平年より低い海域がみられなくなりました。
東シナ海では、海面水温が平年よりかなり高い海域が拡大しました。
四国・東海沖では、引き続き広い範囲で海面水温が平年より高く、平年よりかなり高い海域もみられます。

<向こう1か月の見通し>

日本海・東シナ海の海面水温は、向こう1か月、平年より高いか、かなり高いでしょう。
四国・東海沖の海面水温は、向こう1か月、平年より高いでしょう。

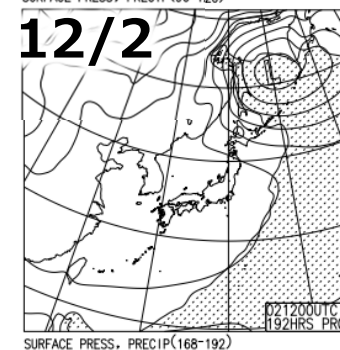
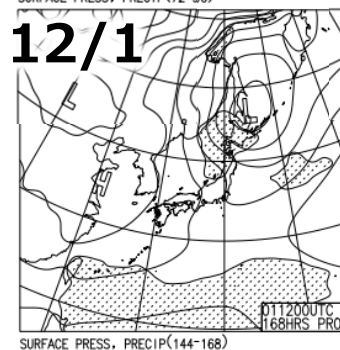
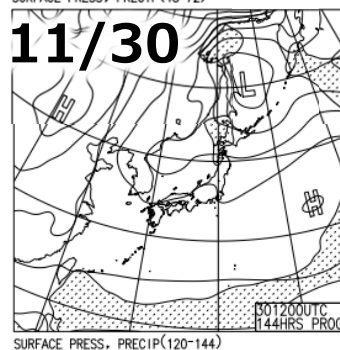
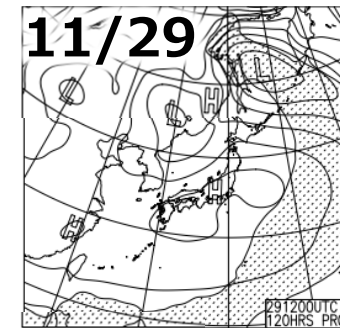
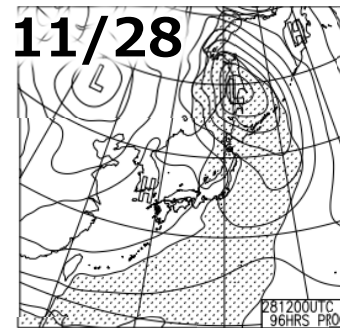
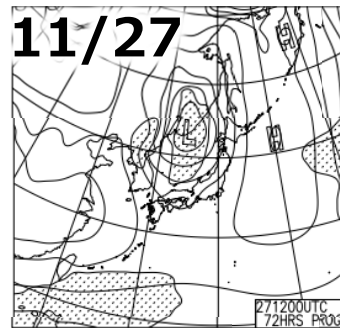
詳しくは、気象庁HP
海洋の健康診断表（日本近海・海面水温・旬ごと）をご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/shindan/c_1/jpn_jun/jpn_sst.html

福岡県の週間天気予報と予想天気図 (11/25 11時発表)



福岡県の天気予報 (7日先まで)								
2025年11月25日11時 福岡管区气象台 発表								
日付	今日 25日(火)	明日 26日(水)	明後日 27日(木)	28日(金)	29日(土)	30日(日)	01日(月)	02日(火)
福岡県	曇一時雨 	曇時々晴 	曇一時雨 	曇時々晴 	晴時々曇 	曇時々晴 	曇時々晴 	曇時々晴
降水確率(%)	-/-/60/20	0/10/20/10	50	30	20	30	30	30
信頼度	-	-	-	A	A	A	A	A
福岡 気温 (℃)	最高	19	16	18 (17~21)	15 (14~17)	17 (16~19)	20 (19~22)	17 (16~21)
	最低	-	11	8 (7~10)	7 (6~9)	6 (5~8)	9 (6~11)	8 (5~9)
向こう一週間(明日から7日先まで)の平年値								
		降水量の7日間合計			最低気温		最高気温	
福岡		平年並 8 - 25mm			8.3℃		15.5℃	



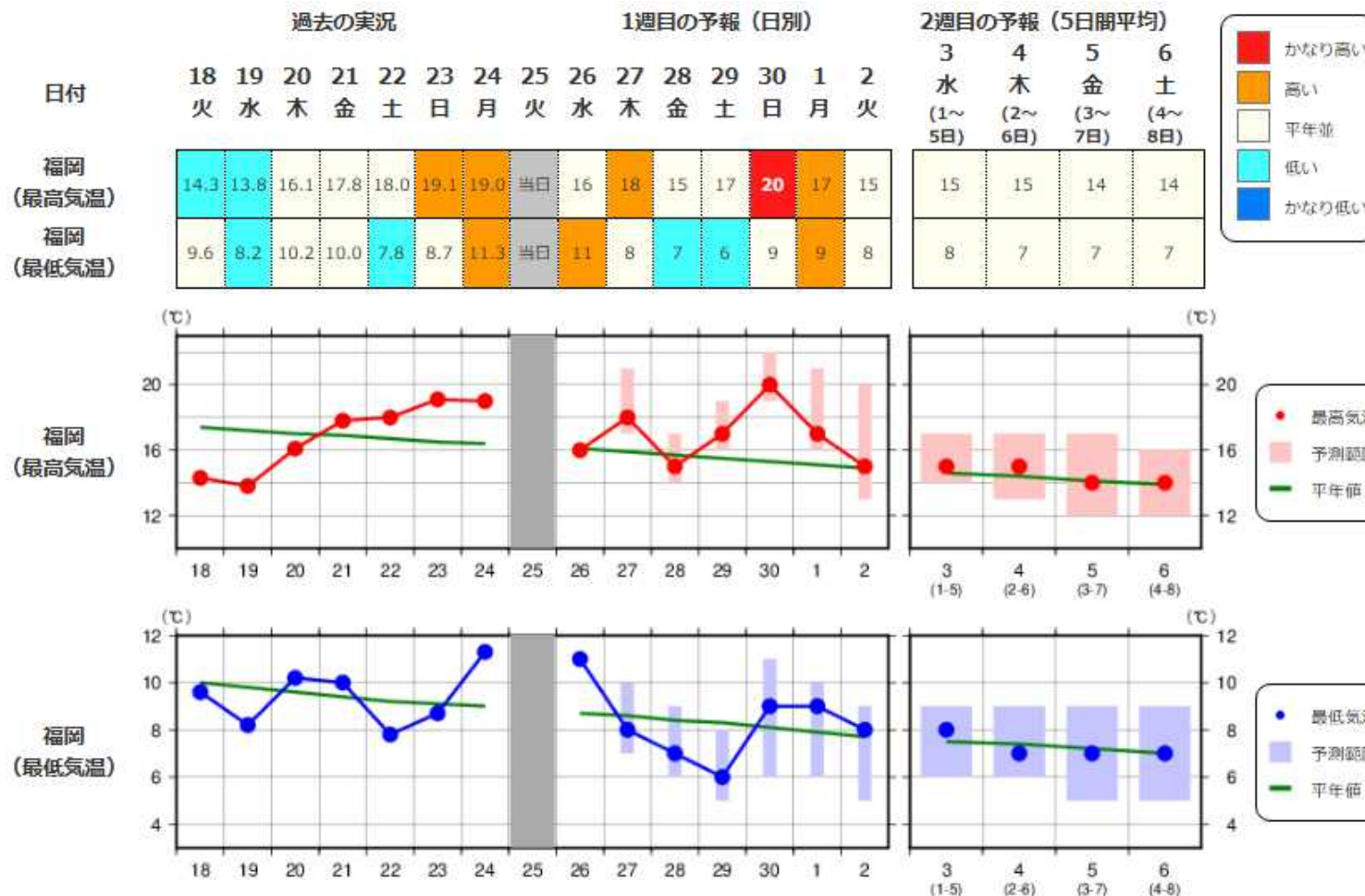
(21時の予想)

福岡県の2週間気温予報 (11/25 11時更新)

毎日14時30分発表



福岡



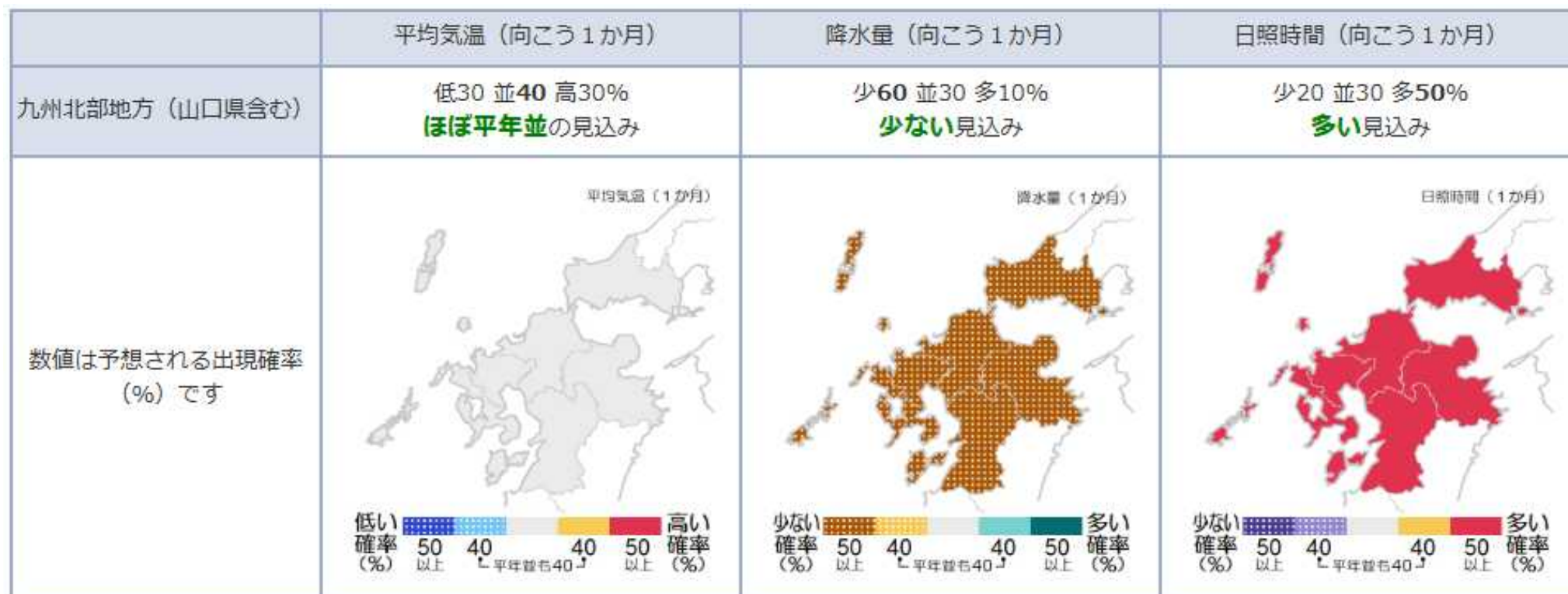
九州北部地方



予報のポイント

- 移動性高気圧に覆われやすいため、**平年に比べ曇りや雨の日が少ない**でしょう。
- 向こう1か月の**降水量は少なく**、**日照時間は多い**でしょう。

向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

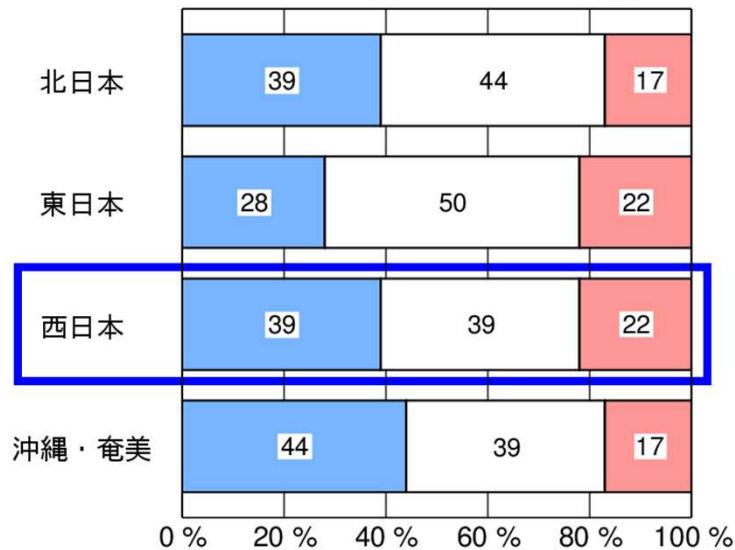


週別の天候と平均気温

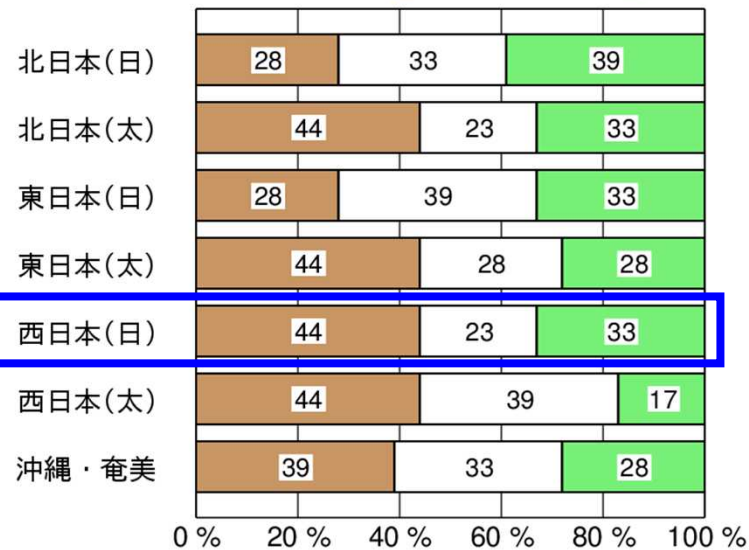
		1週目 11/22～11/28	2週目 11/29～12/5	3～4週目 12/6～12/19
天候		天気は数日の周期で変わるでしょう。	移動性高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。	高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
平均気温	九州北部地方 (山口県含む)	低20 並50 高30% 平年並 の見込み	低30 並50 高20% 平年並 の見込み	低30 並40 高30% ほぼ平年並 の見込み
	数値は予想される出現確率(%)です	平均気温(1週目)  低い確率(%) 50 40 40 50 高い確率(%) 平年並 40	平均気温(2週目)  低い確率(%) 50 40 40 50 高い確率(%) 平年並 40	平均気温(3～4週目)  低い確率(%) 50 40 40 50 高い確率(%) 平年並 40

ラニーニャ現象時の統計（冬）

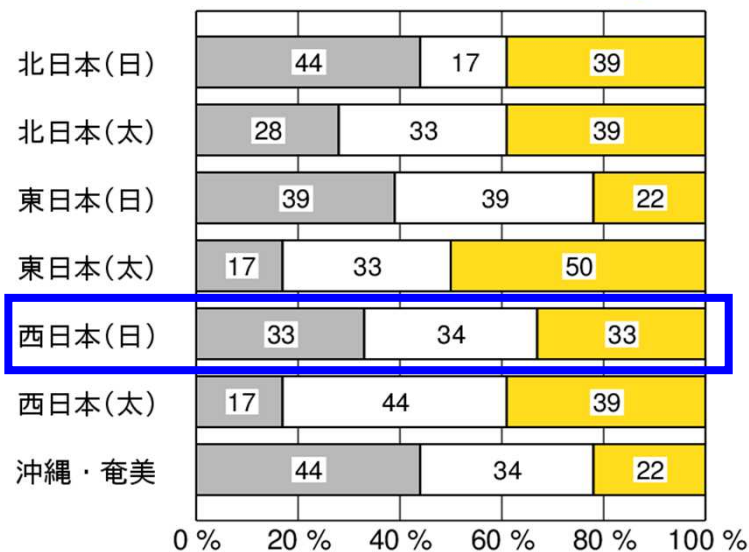
ラニーニャ現象が発生しているときの
平均気温 <冬> 低い 並 高い



ラニーニャ現象が発生しているときの
降水量 <冬> 少ない 並 多い



ラニーニャ現象が発生しているときの
日照時間 <冬> 少ない 並 多い

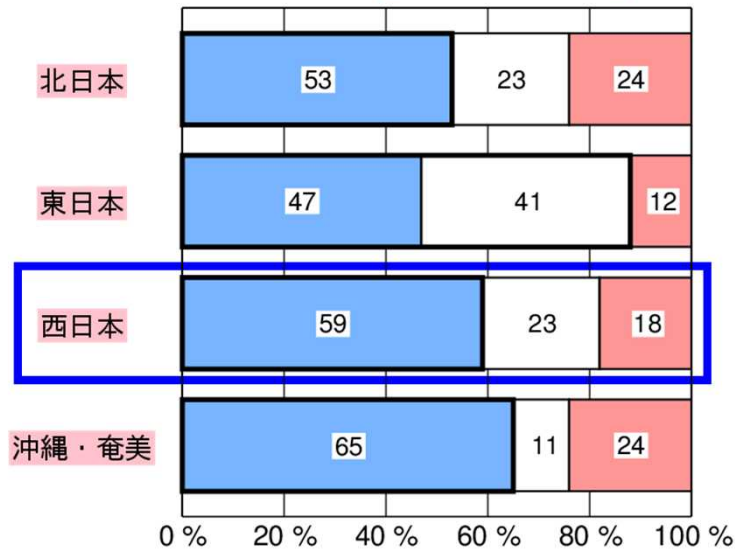


有意な傾向なし

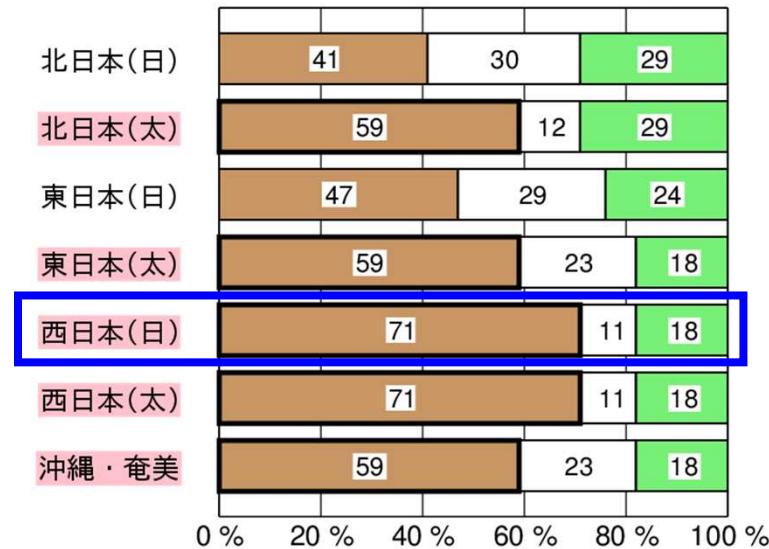
※統計的に優位な傾向がある場合は、
地域名に**赤い帯**、棒グラフに**太黒枠**を示す。

西太平洋熱帯域の海面水温が高温時の統計（冬）

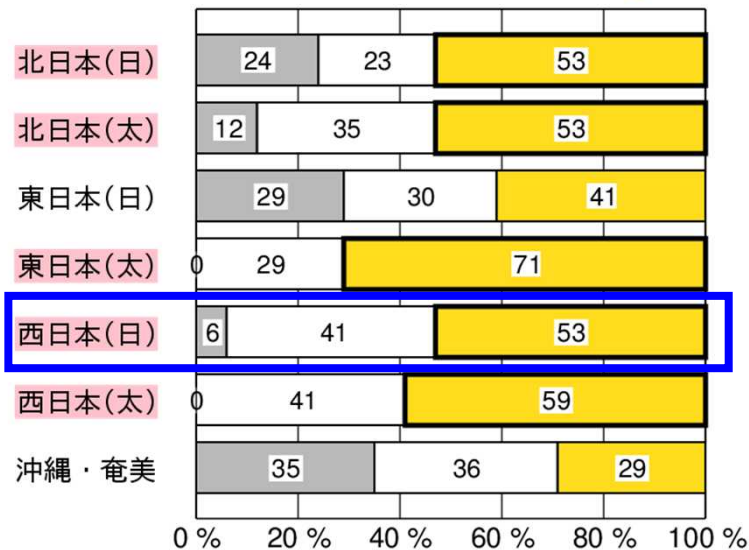
西太平洋熱帯域の海面水温が高温のときの
平均気温 <冬> 低い 並 高い



西太平洋熱帯域の海面水温が高温のときの
降水量 <冬> 少ない 並 多い



西太平洋熱帯域の海面水温が高温のときの
日照時間 <冬> 少ない 並 多い



**気温は低い、
降水量は少ない、
日照時間は多い傾向**

※統計的に優位な傾向がある場合は、
地域名に**赤い帯**、棒グラフに**太黒枠**を示す。

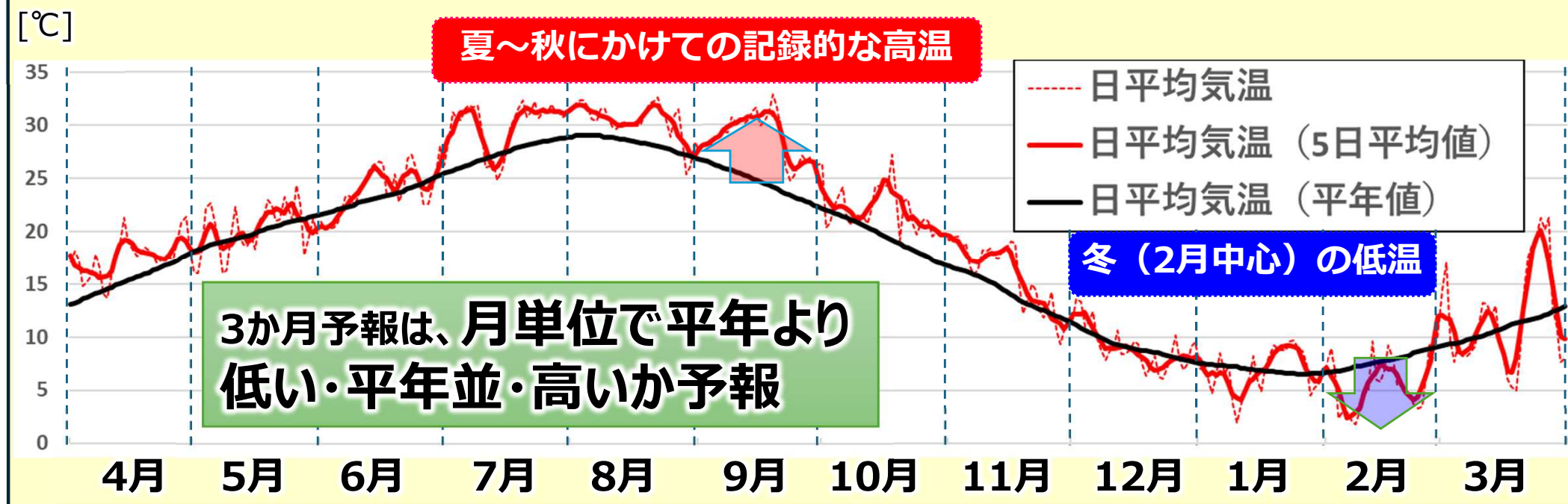
季節予報（3か月予報等）概要



季節予報

- ・ 時間・空間スケールの大きい現象に着目
- ・ **平年の天候からの偏り**を予報
- ・ 各種産業・早めの防災・健康管理への活用に期待

【例】日平均気温（福岡）の推移（2024年度）



3か月予報

予報期間（向こう3か月）の天候（気温・降水量）を月・地方単位で確率を用いて予報

12～2月

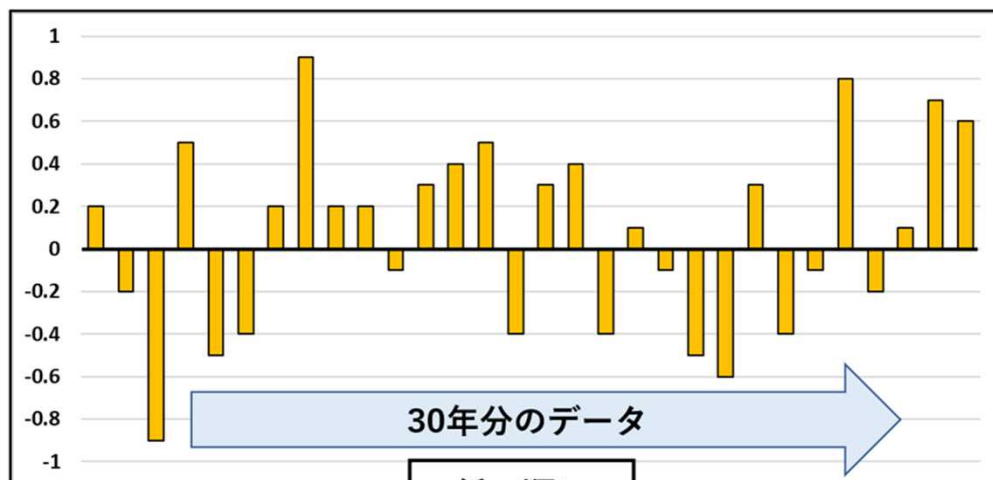
九州北部地方

低い・平年並・高い確率〇〇%

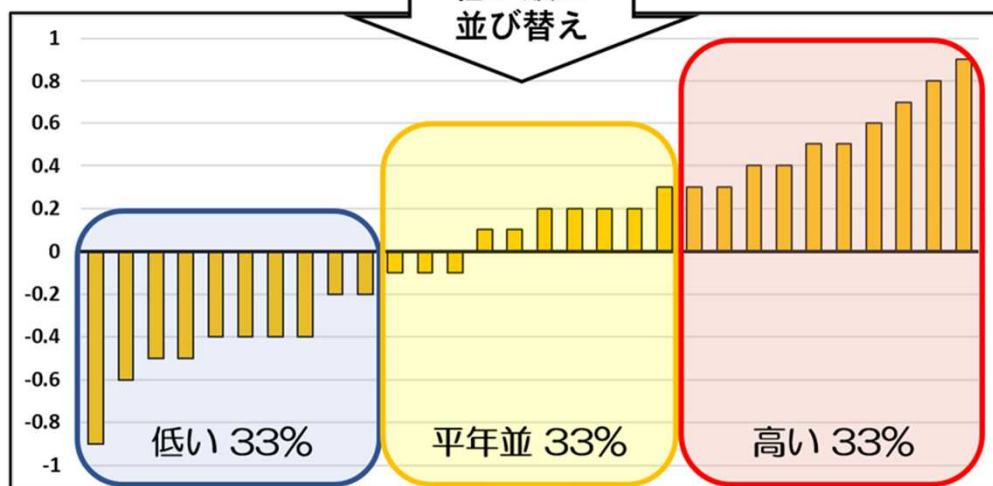
- 季節予報は、平年の気候と比べて、どのくらい偏った天候が予想されるかという予報です。
- 基準となる平年の気候は、1991～2020年の30年間の平均としています（10年毎に更新）。
- この30年分の気温を小さい順に並べて、下から10年を「低い」、上から10年を「高い」、真ん中の10年を「平年並」という階級で表わします（次頁を参照）。
- 季節予報では、この3つの階級それぞれに予想される確率を予報します。

平年並の範囲と確率予報

平年並の範囲の求め方



低い順に
並び替え



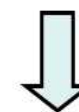
この例では「平年並」の範囲は $-0.1^{\circ}\text{C} \sim +0.3^{\circ}\text{C}$

3 階級の確率予報

季節予報では、左のように求めた平年並の範囲に入る可能性、上回る可能性および下回る可能性の予報を確率として表現しています。

現在が平年値期間の30年と同じ気候だとした場合、「高い」「平年並」「低い」という階級になる可能性＝気候的出現率は33%となります。今回の予報が、この気候的出現率と比較して、どれくらい数値が大きい／小さいかを見ることが基本となります。

気候的出現率



ある予報

